

HSK ☆ いちばんぼし

HSK通巻58号

昭和48年1月13日第3種郵便物認可
昭和52年2月10日発行(毎月10日)

全国膠原病友の会北海道支部

№23

厳寒の中を 25名出席!

—— 文集刊行を祝う

新年の集い ——

—52.1.30—

みなさん、あけましておめでとうございませう。
新年を迎えて今年こそは元気に居ようとはりきっている
方も多いことでしょう。どうか今年も仲良くおつきあ
い下さい。

さて、先に送りました文集「いちばんぼし」みなさんの
感想はいかがですか? 1月30日(日)厚生年金
会館(学園)において、ようやく出来上がった私たち
の文集発刊祝賀会が開かれました。例年になく
雪も多く又寒さも厳しい中を、25名の方が参加し
(友の会道支部としては今までの最高参加人数です)
関係者一同胸を熱くしました。本当にございませ
うでした。大橋先生、HBC・レポート6「難病シリーズ」
担当の田畑記者、そして難病連の伊藤事務局長

諸氏のごあいづを頂いたのち、存じながら懇親会に入り、初めて顔を合せた方達も同病のよしみ(?)が、すぐ親になりお天かいの体験など交換しあい、閉会の時間になっても席を離れ難い様子でした。

又、別室で行われた医療相談会も遠く富良野や旭川から参加された方達に喜ばれたようです。

尚、当日の様子を翌3日、朝のニュース(NHK)で二度報道された所、全道各地より、電話や手紙が寄せられました。その中には膠原病の方はもちろん、小児ガンの子を待、母親、ガンの手術をしたおばあさん、ピルカ氏病の方などで、このニュースが孤独に閉ざされた人々の心のドアをやさしくノックしたと言っては少しキザでしょうか？
毎日新聞、北海道新聞の反響も合すると50名くらいあります。

それ以外にも、ひとたびマスコミの力を借りると反の会がまたまた道内各地に知られていないことを反省させられます。尚、この文集は、皆さんの会費で作りましたので、会費納入者には無料で配布しますが、お知り合いの方にもすすめて、売上げに協力して下さい。2月25日現在残数が少なくなりました。近く2刷りも出る予定です。
又3月3日HBCレポートと「難病シリーズ」で文集が紹介され寺嶋、杉崎が出ました。

。支部長 あいさつ

皆様、今日は寒く厳しい中をお集り下さりまして
どうもありがとうございます。

ここによく出来上がった 私たちの初めての文集を手
にしながら、友の会北海道支部の代表させて頂いて、今日
程嬉しいと思ったことはありません。

お急しい中を原稿をお寄せ下さった、先生看護
婦さん、HBCの田火田さん、そして滴いの中で痛む
手をさすりやとの思いで書いて下さった会員の皆さん、ほ
んとうにどうもありがとうございます。心からお礼を申し
上げます。

文集を作ってみようという声が出たのは去年の2月で
した。その時私は「患者の作る文集なんてなにかじ
めじめしいやだわ」と反対意見を出したことを覚えて
います。「それなら陰気臭くない、明るいものを作る
じめはないか」ということになり、原稿集めの呼びかけ
がはじまったのです。でも秋発行予定なのに、夏を
過ぎても原稿はなかなか集りませんでした。そんな
中で、名寄市の田中順子さんのお母さんから一編の
詩が送られて来ました。私たちの呼びかけに答えてく
れた、たったひとりのためにも頑張らなくちゃと気を持
ち直したのはその時でした

でも素人の私たち、印刷の段階になっても、楽しみより不安の方が大きく、どんなものができるやらと眠れない日も何日かありました。

文集発行のために15万円の子算を考えてましたが、いろいろ交渉して安くしてもらっても17万円になってしまいました。300部印刷で少し高いようですが、500円という単価が精一杯でした。

とにかく初めての文集、みなさまからご感想、ご批判などいろいろ教えて頂きたから又2号3号とよりよいものが出せたらどんなに嬉しいでしょう。

今後共 どうぞよろしくお願ひします。

尚、今日この会場をお借りすることが出来ましたのは、当会館の総務支配人であり又、会員の佐藤智恵子さんの御主人でもある佐藤さんの御好意によるものです。

一参加者一

- ・大橋先生。従二看護婦。・田畑言之者
- ・伊藤事務局長。平川親子。金令木(新)
- ・岸本親子。伊藤。中川親子
- ・石崎。佐藤夫妻。杉崎夫妻+奈々ちゃん
- ・遠藤。木谷。関口。村谷夫妻。沢田
- ・清水。寺嶋夫妻

(以上尚文称田各)

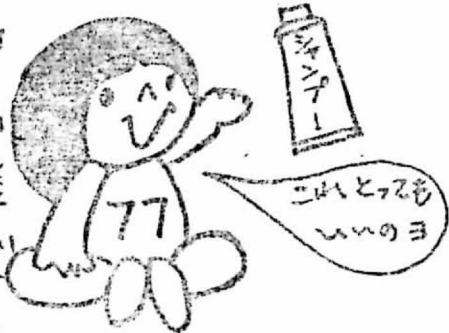
「シャンプーの販売について」

12月に紹介しました「海藻エキス入りシャンプー」皆さんのご協力ですでに4箱目(4×60=240本)の販売に入り、運営委員一同 嬉しく思っております。

只、これだけ売ったからもういいというのではなく、今後難病連の財政危機を乗り切るためにも、これからも御協力を頂きたいと思います。このシャンプーは定価600円を550円で売り、友の会1本100円、難病連90円の利益となります。難病連に加盟している私たち友の会としては、積極的にこれを販売し、現在大変苦しい立場にある難病連の財政建て直しに貢献すると共に、友の会の財政を豊かにしていこうではありませんか！

NHKでも報道され、使った方の感想も大変好評です。単に、活動資金の問題

だけでなく、このことに参加することによって会員相互の団結を強くし、一般の方々の難病についての理解や関心を高めるもらう絶好のチャンスでもあります。難病連事務所(261-8026)または、寺嶋()までお申し込み下さい。



〇〇〇 入金のお知らせ 〇〇〇〇

51年度分の遺の補助金が暮れもあつきました頃
よやく難病連に交付になりました。

友の会にも下記の様に入金されましたのでお知らせします。

{ 保護者研修費 として 相談会補助 " " 療育キャンプ補助 " " 療育指導誌補助 " " 相談員補助費 " "	} 医療相談会 及び"総会ほか"	30,000-
		30,000-
		20,000-
		20,000-
		30,000-

計 130,000-

前、この中から分担金50,000円を難病連に支払いました。
又、東京本部から30,000円入金されました。去年の7月と
合せて、59,000円の補助金ということですが、本当は3月に
交付される分を、文集の印刷代支払のために特大お願
いし、早く送って頂いたので、こんなわけで、文集の発
行遅れたのは「ケガの功名」というか、借金なして、印刷
代を支払うことができてホシとしています。

～寄付を頂きました～

加川の森口さん 2,200円

中村胖さん 1,500円

菅野の景次さん 切手 960円分

奈良喜多さん 10,000円

息子の申川さん 1,400円

(このたびは文集を譲りていただき
また役員として御協力いただき
ありがとうございます)

菅野の野村さん 1,000円

その他会費のおつりや切手などたくさん寄せられています
誌上をかりてお礼いたします。

ありがとうございました。

▷ 新入会員 紹介 ◁

● 金令木花子 札幌市東区

27才 SLE

● 石亀澄子 札幌市中央区

46才 (膠原病の反応あるか 病名未定)



ホット ホット ニュース

3月3日前後 HBCテレビ 夕方6時よりの“テレポート
6”の難病シリーズで 文集“いちばんまじ”が紹介
されます。今回は寺嶋支部長宅と、杉崎副支
部長宅で8mmをとりました。御期待下さい。



おたより
コーナー

——伊達市 上尾町 郁子さん——

冬將軍の後を追うようにシベリアから渡ってきた
大白鳥が有珠湾で羽を休めています。

毎年、年の暮れ、年の初めとひとつの区切りに出会うと時の
流れというものを嫌という程感じさせられます。別に
何が変わるわけではないのに、年が変わったというだけで、何
かひどく新鮮な気持ちになったりするものです。北星学園
大学、社会福祉学科に在籍、毎日、元気にがんばってます。

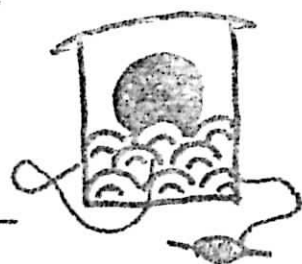
——帯広市 藤田浩子さん——



昨年は4度も入院をくり返
してしまいました。現在アルドニンの
お世話になっております。今年こそ
健康を自分のこの手にとりもとりたいと願っております。

——札幌市 関口朝子さん——

今年も元気で新年を家で
迎えることが出来ました。



——札幌市 佐藤 智恵子さん——

体の方は大分良くなり、家事もやっております。

——三笠市 戸田 夕恵子さん——

おかげさまで漢方薬をのんでいるせいか良くなり、きてる
ようです。プレドニンはほとんどのんでません。

——室蘭市 山崎 よしえさん——

寒くなりまして私もちょっと
こたえておりますか がんばって
ます。



——札幌市 石崎 精子さん——

おかげさまで 昨年も元気で過ごすことが出来ました。
秋には船で土佐陸や能登を訪ねてきました。美しい風
景も出会った人々の暖さも心に残る一週間の旅でした。
今年もどうか良い年でありますように。

——函館市 井上 ツネさん——

日頃、色々とお役り下さいまして、ありがたく思っています。昨年5
月から10月までずっと入院いたしましたので、何の返事も出せず、お許
し下さい。友の会、皆様も、お身体に気を付けて下さい。

—— 糸又別町 岩崎啓子さん ——

長い間 御無沙汰 致して居ります。皆様のお活躍
いちばんぼし等で拝見致し、心より喜んで居ります。

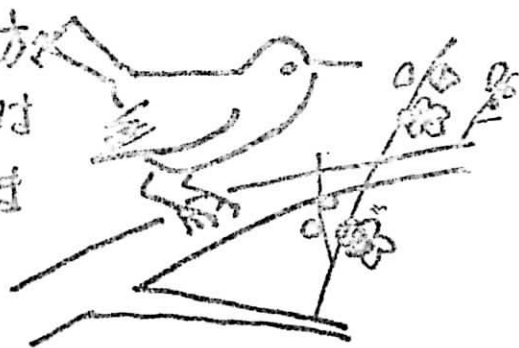
私も御蔭様で退院后、身体の大変な変動もなく
健康人として楽な生活をして居ります。二週間に一度の
通院と薬ははずす事が出来ませんが去冬迄はSLEを
熱心に研究して下さいる先生が深川の赤立病院に居り
まして安心してその先生におまかせしていたのですが、又北大
の方に帰られてしまつて地方には仲々良い先生は居てくれま
せん。薬の量等も心配で又一度北大か旭川の病院
にでも行こうかと思つて居ります。

—— 札幌市 石田まさ子さん ——

発病14年目トヤと病名がわかり通院をつづけて早や
2年近くたりました。初めは

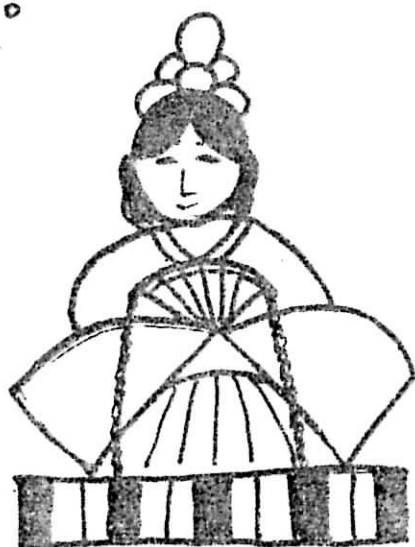
ショックでくろしみに自分を見うし
なうような毎日でしたが……

“いちばんぼし。と同じ病気の方
とのお話し合いなどで”この頃は
やっと少しおちついてまいりま
した。



私が発病したのは小学校5年の時今年で10年かよほどしております。この病気にかかるのは若い女性(20才前後)が多いらしくて、私のように子供の時に発病したというのは大変めずらしいらしくて私自身どうしてこんな病気にかかってしまったのか不思議でなりません。ですから学生時代は学校を卒業するのにかたがり苦勞をしました。それでもなんとか近くの養護学校で義務教育をおえることができ、今は二週間に一回病院通いをし家で療養中の身です。

早く普通の人のように働けるようになりたいといつもそばかりを願っております。



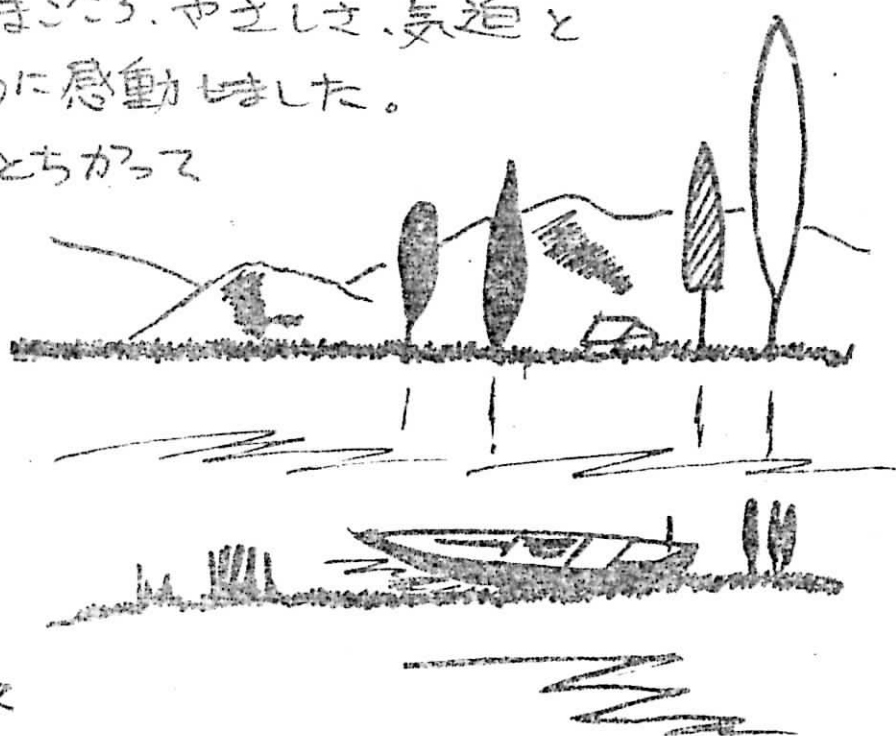
———京都支部長 本田千枝さん———

昨日は思いがけなく北海道の会報
送っていただきましてありがとうございます。

早速昨夜夢中で読ませて頂き各号に
あふれるまじこ、やさしさ、気遣と
いったものに感動しました。

京都版とちがって

のびのび
としたか
つも沢山
あり内容
面では京
の会誌に
載せさせて
頂いたもの



研修会で参考資料として使わせて頂いたもの
も日々ございまして、全体として私どもが抱えている広々
とした北海道を感じさせるおあらかさに素適だなあ
……と、今後の楽しみが増えてきました。2、3年前、
千葉で出会った松島よし子さん どうしてUSJに
行くのかは、今後ともよろしくお願ひいたします。
まずは、お礼まで。

—— 札幌市 石亀 澄子さん ——

文集など送付下さったものを、一息に読んで自分自身のことを把握して今後の指針にしたいと思います。本当に色々ありがとうございます。仲間に入れて頂ける場の有ることを感謝いたします。

● —— 富良野市 平川 操さん ——

先日は大変お世話になりました。久しぶりに外へ出て気持ちになりました。でも帰って来てすぐにつかれました。母も「大変参考になった今後体の調子が良かたらしび」参加させていたたいたんと言っていました。役員の方々の苦勞も決山あります事でしょうかかまはせて下さい。

（文集刊行を祝う新年の集いに参加して）

—— ☆ —— ☆ —— ☆ ——

テレビ新聞に文集が紹介され、お手紙、TEL質問など多数寄せられておりますが紙面のついでに次号にゆずりたいと思います。

なを感相、御意見、文集2号の原稿などまとめてあります。（役員一同）

告知版

難達の事務所でがんばっていた長谷川さん
(SLE)が入院しました お便りを書いてあげま
しょう。

札幌市 東区 伏古10条2丁目
勤医協 中央病院
内科1階 長谷川道子さま

住所が変りました

谷口啓子さん

新住所

○札幌市中央区

編集人 全国膠原病友の会 北海道支部
札幌市南区 寺嶋 礼子

発行人 北海道身体障害者団体定期刊行物協会
札幌市中央区北1条東4丁目 本間 武司

昭和48年1月13日第3種郵便物認可 HSK通巻第58号 ㊥50
いちばんぼし523 昭和52年2月10日発行(毎月1回10日発行)
